

日本新聞年鑑 '09-'10

オセアニア

オーストラリア

2008年夏の北京五輪では「五輪は政治のリベラルな変化への触媒にならなかった」と手厳しい論調を載せたシドニー・モーニング・ヘラルド (SMH)。警察が五輪資金を使い、インターネットや公共の場所での監視方法を「改良した」ことなどを指摘した。「賭けに勝った」と賛辞を贈ったフランスのフィガロ紙とは対照的なスタンスだったが、オーストラリアのジャーナリズムの一面を垣間見ることができるだろう。

そのオーストラリアの新聞界も不況の波を乗り越えるために、新しいビジネスモデルを目指して、様々な試みを行っている。

SMH (21万部, -1.0%, 発行部数はABA [旧オーストラリアABC] 08年7-9月期, 増減は07年同期比。以下同), サン・ヘラルド (47万9000部, -4.2%) などを発行する大手メディア企業フェアファクス・メディア社は08年8月, ジャーナリスト180人を含む550人の人員整理 (社員数の5%) を目指すと発表した。これはオーストラリアでもかなり規模の大きい人員整理で、オーストラリア, ニュージーランドの同社系列にある新聞や雑誌の編集, 印刷, メンテナンス, ウェブサイトなど, すべての部門に影響を及ぼすものであった。同社はこの大量解雇に5000万豪ドルを用意, 08年度実績では2500万豪ドルのコスト削減成果が生じると期待した。

他方, 同社は08年4月以降, インドの3大英字紙のひとつザ・ヒンズー (120万部) を発行するカツリ家 (1905年創立) に接近している。インドは中国に続くメディア市場として注目を浴びており, 既にメディア王, ルバート・マードック氏, 英国・ピアソングループ, そしてアンソニー・オライリー氏のインディペンデント・ニューズ・アンド・メディア (INM) などが虎視眈々と市場参入を目論んでいると見られる。

シドニーのチャンネル7, 首都キャンベラ・タイムズ (3万5000部, -0.8%) を旗艦としてオーストラリア第4のメディアグループを率いるケリー・ストークス氏は07年から西オーストラリア新聞社への参入を画策していたが, 08年には4100万豪ドルを費やし, 同社の22.4%株を獲得。8か月にわたる争いに終止符を打ち, 経営に大きな影響を与えることになる。また彼は, 上海デーリー (英字紙, 6万部) や携帯TV市場にも食指をのびし, マードックを例外とすれば, オーストラリアメディアとして中国市場へ初の参入者になるようにしている。

新聞読者が減少する一方, ウェブサイトへのアクセ

スはオーストラリアも日本同様に増えている。上位に占めるサイトはやはり大手メディア社のもので, 上位は fairfax.com.au, smh.com.au, ninemsn.com.au, news.com.au, theage.com.au など (08年7-9月の月間平均)。2年前に比べて倍以上の1960万人のオンライン読者が存在する。

ジャーナリズム教育 学部あるいは大学院でジャーナリズム専攻をもつ大学の6割以上でオンラインジャーナリズムに関する科目が増えている。29大学を例にとると, 1年目はデジタルメディア制作のために, 音響, ビデオ, イメージやニューメディア理論を学び, 2年目はウェブ立ち上げのためのデザイン, レイアウトを学習, 既存の印刷・放送ジャーナリズムを補充しつつ, サイバー上での原稿執筆の訓練, そして3年目はインターンシップを活用して自分の関心をさらに高めるといった内容である (オーストラリアの学部は3年制)。また学士・修士の学歴も, ジャーナリズム主専攻の文学士, メディア学士, ジャーナリズム学士, 大学院レベルではジャーナリズム修士, 同修了などと多彩になっている。王立メルボルン大学とシドニー工科大学がオンラインジャーナリズムで授業を行っているほか, こうしたコースにはメディア産業に従事する者たちがキャリアアップを目指して学んでいる。

オーストラリアの新聞発行データ2008

	発行部数	前年比
全国・大都市日刊紙 (月～金)	223.9万部	-0.09%
同 土曜日版	295万部	-1.6%
大都市日曜紙	332.6万部	-2.7%

発行部数は2008年7-9月期 (ABA)。最大発行部数は平日, 土曜紙ともヘラルド・サン (メルボルン, 平日=52万部, 土曜=50万部), 日曜紙はサンデー・テレグラフ (メルボルン, 65万部)。

ニュージーランド

ニュージーランドのメディアは外国資本の影響が強いことはよく知られている。2005年マードック氏がINL (旗艦紙: ニュージーランド・ヘラルド, 18万7000部, 発行部数はニュージーランドABC, 08年6月, 以下同) をフェアファクス社へ譲渡するまで最大の影響力をもっていたが, 今日では都市部で発行されている主要日刊紙の8紙中7紙, 同地方都市の13紙中10紙がフェアファクス社かオライリー氏 (ANM) の傘下にある。日刊21紙67万1000部中, 自国資本率は1割に満たない。その自国メディアの代表はアライドプレス社 (スミス家) が南島のダニーデンで発行するオタゴ・デーリー・プレス (4万1000部)。

上智大学文学部教授

鈴木雄雅 (すずき・ゆうが)